

# 同性愛と性同一性障害 からの回復

メルビン・ワン

2月17日から20日まで沖縄において元の「ジエネシス」主催で、同性愛と性同一性障害に関するセミナーが開催されました。

講演は、サンフランシスコ在住の臨床心理学者メルビン・ワン博士。博士は、同性愛者の立ち直りを援助する「エクソドス」の理事長であり、『健全な性意識を持つ子を育てる』（シンガポールにて刊行 邦訳なし）という著書もあります。また臨床心理士としてのお働きの他に医科大学、病院、神学校などでも教鞭を取っています。FFJはPR、関連資料の販売などでセミナーに協力しましたが、通訳として奉仕した代表のテモテ・コールがワン博士にお話を聞きました。

「まず、先生の自己紹介からお願いします。ワン 妻も私も香港出身です。アメリカへ私は留学生として、妻は移民として家族全員で行きました。結婚したのはアメリカです。先生は、どういう次第でジェンダー、セクシュアリティ問題を専門に扱うようになったのですか。ワン 私はカリフォルニア大学バーク

レー校で地質学を専攻しました。そこで会ったガールフレンドとの別れによって大きな痛みを経験したことから、人生について真剣に考え始めました。そして再び教会に戻り、信仰について考え始めたのです。

同時に、「心の痛みを苦しむ人を助けるような仕事に就きたい」と進路についての考えを改め、臨床心理学を学び始めました。そこで、性的な違和感に悩む人たちの持つ深い痛みに気づいたのです。

神さまは私を、同性愛者や性同一性障害者を助ける団体である「エクソドス・インターナショナル」でアドバイザーとして働くように導かれました。そこで、同性愛に悩んだ後、今はイエス・キリストとの個人的な関係を持つことによっていやしを経験したという多くの方々を知ることになりました。

## ● 一般的な誤解

「同性愛や性同一性障害は大きな議論を呼ぶ話題であり、誤解する人も多いかと思えますが、一般的にはどんな誤解がありますか。また、それはどこから来ているのですか。」

ワン 二番目の質問から最初に答えましょう。残念ながら、メディアはある同性愛者、性同一性障害者の政治団体と共謀して、嘘や誤解を一般に広めてしまいました。一例を挙げましょう。

1993年にメディアは「ゲイ遺伝子」の存在を示唆するとされる研究について報道しました。ところが、この説には信憑性がないことが分かった時、メディアは口を拭い沈黙していました。これはよくあることです。いずれにせよ、一般的な誤解をいくつか挙げます。

カミングアウトした男性の同性愛者で、「ゲイ」の生き方を公にした人。女性は「レスビアン」と呼びます。「性同一性障害（GID）」  
自分の性意識について混乱している状態。性同一性障害の男性は、自分が、男性の体に閉じ込められた女性だと感じます。性同一性障害の女性は、自分が女性の体に閉じ込められた男性だと感じます。「トランスセクシュアル」  
性同一性障害の人が、服装、所作、ホルモン治療、手術などにより逆の性になるうとしている状態です。

確かに、同性愛や性同一性障害の行動は個人が選ぶ罪ですが、性的な違和感や人が選ぶものではありません。私が言う意味は質問に答えるうちに明らかになると思います。

「性分化疾患（インターセックス）」  
生まれながらに生殖器が未発達、または両性の生殖器を持つ場合です。これは生理的な障害であり、心理的な障害である同性愛、性同一性障害、またトランスセクシュアルとは異なります。もう一つの誤解は、同性愛またトランスセクシュアルの傾向は、遺伝、または環境ホルモン、または生まれながらの要因によるというものです。

「同性に引かれる」  
情緒的または性的に同性に引かれることです。同性に引かれつつも、同性愛者としてではない生活を選ぶことができます。

実は、「ゲイ遺伝子」など生まれながらの要因があるという証拠はないのです。性分化疾患を、「生まれながら」の証拠だと言う人もいますが、性分化疾患の状態は、普通、胎児の生殖器の器質的成長が不完全かあまいなのです。同性愛とトランスセクシュアルは、主に心理的な要因によります。

「ゲイ」  
同性に引かれて行動し、同性との性的行為を（普通は隠れて）している人。実際には、ある人が同性愛者であるかどうかは、本人がそう言わない限り心理士でさえ分からないものです。

（以下略）